



新春座談会

令和6年

▲(後方左から) アサノさん、佐藤市長、鎌田議長、鎌田さん (前方左から) 吉田さん、津田さん

の魅力と可能性とは。

新たな年を迎えて

市長■新年明けましておめでとうございませう。新たな年を迎え、皆さんも目標をお持ちだと思ひます。令和6年は甲辰年^{きのとだつ}で、変化をもたらしていく年と言われています。

現在、塩竈市は大きな課題を抱えており、老朽化した公共施設の建て替えや産業振興、浦戸の再生など、道筋を検討し実践していく重要な時期です。もちろん努力をし続けることが大切ですが、重要なのは、議論をより良い方向に進めるために若い皆さんにも塩竈のけん引役として、強い気持ちをもっていただくことだと思ひています。

本日は、地域おこし協力隊の皆さんのお力を貸していただきありがとうございます。よろしくお願ひします。

鎌田■私は、浦戸の寒風沢島に住み、漁師をしています。3年前に地域おこし協力隊として移住し、漁師の修業を積みました。

地域おこしの目的で移住したので、漁業だけではなく、地域教育として、子どもから大人までさまざまな人を対象に体験授業をしたいと考えています。その受け皿として、大学の先

生に協力いただきながら、昨年10月に一般社団法人を設立しました。

吉田■私は、昨年11月に寒風沢島に移住しました。地域の活性化を目指し、活動していきたいと思ひています。音楽が好きで、今後は音楽を通じた地域づくりを目指していきたいです。

津田■私は、地域おこし協力隊として、仲卸市場で働いています。もともと建築関係の仕事をしてきましたが、幼い頃から両親に連れられて、大好きだった仲卸市場で、このような制度があると知り、就任しました。



漁業の傍ら、体験授業を通して浦戸諸島の魅力を伝える鎌田さん

ゲストの みなさん

司会



78.1FM ベイウェーブ
パーソナリティー
アサノタケフミさん



漁師(元地域おこし協力隊)
かまだ たけひろ
鎌田 雄大さん



地域おこし協力隊
よしだ ゆめ
吉田 夢さん



地域おこし協力隊
つだ なるみ
津田 成美さん

塩竈市出身。2021年に地域おこし協力隊として寒風沢島に住み、漁師の修業を積む。2023年3月に協力隊を卒業し、漁師として独立。

多賀城市出身。高校時代は塩釜高校合唱部に所属。音楽を通じた地域活動を実践。2023年11月に地域おこし協力隊に就任し、寒風沢島に移住。

石巻市出身。建築関係の仕事の経験を積み、2023年5月に地域おこし協力隊に就任し、塩釜水産物仲卸市場でリノベーションなどに携わる。

住んでみて分かった！ 塩竈

移住して感じた魅力

鎌田■私は、塩竈出身ですが、地元の魅力を感じたのは、寒風沢島に住んでからです。浦戸には、このような暮らし方があって、こんなに自然があるんだと思いました。この魅力をもっと伝えられるのではないかと思います。

ほかに、塩竈には鹽竈神社や地酒があり、それに寒風沢島の米で造られたお酒もあります。そういった魅力を活用すれば面白いと思いますし、観光収入も見込めるとも思います。もっと魅力を前面に出していきたいですね。

吉田■私は、島に住みたいという夢があり、たどり着いたのが浦戸でした。音楽を通じて、たくさんの人が笑顔になれる時間を作っていきたいですし、多世代交流の場所を作りたいと思っています。地域づくりと音楽をリンクさせていきたいです。

津田■塩竈には古い建物が多く残っていて、今でも上手に活用している方がたくさんいらっしゃいますね。新しい物に目が向いてしまうことが多いなか、古き良き物の魅力を分か

っている方が多いというか、古くて良いものを大事にする方が多くいらっしゃる。それが、魅力的だと感じています。

市長■地元の方が地元の良さを知ることが大切ということですね。塩竈に住んでいても浦戸に行ったことがない方も多くいると思います。

市では、子どもたちが浦戸に行く機会を用意する事業を始めています。まずは、目の前にある可能性を若い皆さんやお住まいの皆さんに伝えていきたいと考えていますし、このように発信していくことが私たちの責任だと思っています。



本町通りなど
門前町に残る
歴史的建造物
(旧廻びや旅館)

魅力をどう伝えるか

鎌田■発信という点、どうしてもインターネットを通じて…となってしまうのですが、直接意見を交わしあうことも情報発信のひとつだと感じています。

先日、全国の離島の代表者が意見を交わす場に参加したのですが、浦戸の話をすると「ぜひ行ってみたい」という答えが返ってくるんです。実際に来ていただいた方もいます。私は、この「言葉で伝える」ということが大事なことだと思っています。



小学校では浦戸の自然や産業を学ぶ校外学習を実施

例えば、子どもたちが学校行事で浦戸に行き「すごく楽しかった」と言えば「次は家族で行ってみようか」となるように、画面上ではなく、実際に来てもらって、案内して、口コミで発信するという流れが大事かなと思っています。

津田■たくさんの人に届く手法ではありませんが、私も同じく、会いに行くということを大事にしています。文章や写真だけでは伝わらないことがあるんですよ。自分の口から、表情もつけて伝える…など、さまざまな要素が繋がります。



仲卸市場リニューアルに伴い津田さん（写真右）が企画を担当したチャレンジショップにて

とても原始的な手法ですが、会いに行ってお話して連れてきて、その方がほかの人におすすめして連れてくるというスキームが、仲卸市場を「決して便利ではないし、古い建物だけど、なんか良いよね」と知ってもらうための、大切なことだと思います。



「住みやすい塩竈の日常の情報をどんどん発信すべき」と話す鎌田議長

議長■この間、仲卸市場に行ってきたのですが、最近は若い人が多く来られているんですね。津田さんのお話から、人との関わりを大切にされながら、若い人たちが来てくれるように、市場をリノベーションしてくれたんだと感じました。

吉田■私も人と人のつながりが大事だと感じているので、浦戸の交流の場づくりをするために、もっと考えていきたいです。

これからの目標に向かって

市長■皆さんの意見や発想は、自分では見つけられなかったことなので、とてもワクワクして聞いていました。ものの見方を変えると新たな発見ができますね。

例えば浦戸のステイ・ステーションに音楽スタジオがあって、吉田さんが活動をすれば、市外の方も音楽活動をしに訪れることにつながるかもしれませんよ。



旧浦戸第一小学校校舎を活用した漁業就業体験者などが宿泊できる「寒風沢ステイ・ステーション」
吉田さんが音楽の創作をするスペース（右）





仲卸市場の一角をリノベーションして誕生した「セブンストリート」

鎌田 ■そうですね。立地が良いですね。特に寒風沢のステイ・ステーションは、周りが山なので、音を出しても苦情はきませんし、音楽活動にはよい環境だと思います。

津田 ■すぐく素晴らしいことができますのに、自分たちはそれを魅力だと思っていないことが多いですね。

市場で働いている人は、たくさん、技術を持っています。人も、場所も、自分たちのどういったことが魅力なのかということを知ってもらいたいです。



さまざまな技術と経験を積んだ方が市場を支えている

アサノ ■本当は誇るべきことを、当たり前だと思っている方が多くいらっしゃると思います。今後の魅力発信のカギなのかもしれません。皆さんの今後の目標を聞かせてください。

津田 ■仲卸市場を、宮城の台所、というキャッチフレーズのもと、県内の魅力ある農産物や畜産、お花など、気軽に販売できる場所になってほしいと思っています。さまざまな方が出店し、いろいろな地域とつながり、塩竈を知ってもらおう。逆に、塩竈の人に県内の魅力を知ってもらうという場所にしたいです。

吉田 ■私は、浦戸のこの島に来たらここにきてねという拠点を作りたいです。そこは、島の皆さんも観光の方も集える場所です。

私自身も「この人がいるから、浦戸に行きたい」と思ってもらえる人になりたいですね。私にとっては、鎌田さんがそのきっかけを作ってくれた人だったので、私もそんな存在になれたらいいと思います。

アサノ ■今はSNSでスターになれる可能性も十分にあると思います。そういったことでも塩竈のさらなる活性化につながりそうですね。

市長 ■どの分野でも核になってもらえる人がいると、その人を中心に回りますね。ローカルスターは、まさにそのような人を一人でも多く発掘することが大切ですね。



移住したばかりの吉田さん（写真左）は、浦戸を知るため、日々奮闘中

議長 ■皆さんも失敗を恐れずに果敢に取り組んでもらいたいと思います。それが塩竈の活気につながって、いけば良いと感じました。

市長 ■しっかりと過去を見つめ直し、現在を率直に受け入れて、それにどう対峙していくのか、それと同時に、

未来に向かってどういう種を植えていくか、このことを市民の皆さんと相談し、時には厳しい意見のやりとりをしながらも前進するために、しっかりと向き合っていくことが必要です。



「行政は若者が活動しやすい環境をつくるのが大切」と語る佐藤市長

小さな積み上げが、未来につながっていくので、皆さんと一緒に体現出来たらと思います。素材は素晴らしいまちですので、その素材を活かす。そのことをぜひ皆さんにご指導をいただきながら、次の世代にしっかりとバトンタッチできるようにしていきたいと思っています。

本日は、ありがとうございました。

問 秘書広報課広報係

022 (355) 5728